

## 三職種でおこなう新人技師の救急室トレーニング

### ～夜間当直を見据えた教育～

諏訪部 桂<sup>1)</sup> 井上 拓也<sup>1)</sup> 佐藤 菜津美<sup>1)</sup> 田野 光敏<sup>1)</sup> 谷津 隆之<sup>1)</sup>

常味 良一<sup>2)</sup> 美原 盤<sup>3)</sup>

1) 公益財団法人脳血管研究所 附属美原記念病院 検査科

2) 公益財団法人脳血管研究所 附属美原記念病院 看護部

3) 公益財団法人脳血管研究所 附属美原記念病院 脳神経内科

[はじめに] 当院では夜間帯に検査科当直者も救急室で業務にあたっている。おもに救急患者搬入から各種検査に入るまでが救急室の業務となるが、当直を開始する新人技師にとっては日勤帯のルーティンワークとは異なるため不安要素のひとつになっていた。そこで、認定救急検査技師、救急担当看護師、臨床工学技士の三職種がそれぞれの専門的立場から新人技師をトレーニングすることで救急室での不安解消を試みた。

[対象と方法] 平成 30 年 4 月に入職した新人技師男女各 1 名に対し、認定救急検査技師は採血、簡易血糖検査、簡易 CRE 検査、血液ガス採血補助、インフルエンザ迅速検査、12 誘導心電図、感染対策、各職種とのコミュニケーションを担当。救急担当看護師は救急室内の物品、救急患者搬入とストレッチャー搬送、救急の流れ、CPA 対応を担当。臨床工学技士はモニター機器の取扱いと心電図モニターの解説を担当した。トレーニングは救急室で実施し、すべて終了後に新人技師にヒアリングし、不安が残るものや新たに生じた課題などは別途補講とした。

[結果] 新人技師からのヒアリングでは、三職種にそれぞれの専門分野を担当してもらったことで、ほぼ不安は解消でき満足していた。とくに普段から救急の現場にいる救急担当看護師から教育されたことは、救急室で業務にあたる心構えができたと返答をもらった。

[課題] CPA の胸骨圧迫等は、新人技師は実患者での経験がなく、練習用の人形でのトレーニングに留まるほか方法がないため、唯一不安が残ったことである。いずれは経験することだが、早めに ICLS などを受講させ、少しでも自信につなげたいと計画している。

[結語] 今回、新人技師の当直を見据えて三職種がそれぞれの専門的立場から救急室の業務に関して教育したことは、新人技師にとって大変有意義となった。単に部署内に

留まらず、関連職種が協力して教育にあたることは新人教育上有効であると考えられた。